

柏市障害者計画策定のための基礎調査結果報告書
(構成案およびページイメージ)

構成	記載項目	頁数 (想定)
第1章 基礎調査の実施概要	基礎調査の全体像, 各調査の方法や回収結果	4
第2章 基礎調査結果の概要	現行計画の施策ごとの概要や課題	26
第3章 基礎調査結果の詳細	報告書の見る際の留意点	1~2
I 障害者向けアンケート	<ul style="list-style-type: none"> ・ご本人のことについて ・お住まいについて ・障害の状況 ・情報アクセシビリティ ・障害理解・差別解消 ・相談体制 ・暮らしを支えるサービス ・健康・医療 ・安全・安心な生活環境 ・こども(小学校入学前(乳幼児期)) ・こども(小学校入学後(学齢期)) ・就労 ・社会参加・余暇活動 ・全体を通して ・自由意見のまとめ 	180
II 市民向けアンケート	<ul style="list-style-type: none"> ・ご本人のことについて ・興味・関心 ・障害のある人に対する意識 ・障害のある人との交流 ・障害のある人の地域移行 ・全体を通して ・自由意見のまとめ 	20
III 障害福祉関係団体 ヒアリング	(ヒアリング項目ごとの各団体の意見概要)	13
IV 委託相談支援事業所 ヒアリング	(ヒアリング項目ごとの各事業所の意見概要)	6

※次ページ以降に、構成ごとのページイメージを示します。

1. 基礎調査の全体像

柏市では、障害のある方への福祉施策の一層の充実を図るため、現行の障害者計画を見直し、2024年度からスタートする新たな計画を策定する予定です。

この計画の策定に当たって参考として活用するため、アンケート調査とヒアリング調査からなる基礎調査を2022年度に実施し、本報告書に結果をまとめました。

調査方法	調査対象	調査数	調査内容
アンケート	障害者	3,500人 (配布数)	障害当事者の実情や日常生活における困りごと、障害福祉に対するニーズなどを把握することを目的として、各種手帳や受給者証所持者を無作為抽出し、アンケートを配布。
	18歳以上の市民 (上記障害者に該当しない方)	1,000人 (配布数)	地域共生社会の実現に向けて、障害当事者以外の障害福祉に関する意識や関心、障害者との交流機会などを把握することを目的として、18歳以上の市民を無作為抽出し、アンケートを配布。
ヒアリング	障害福祉関係団体	9団体	当事者団体及び家族会等の団体における活動実態や、優先的取組など、アンケート調査からは見えてこない困りごとや課題を把握することを目的として、事前調査票の配布とヒアリングを実施。
	委託相談支援事業所	5事業所	委託相談支援事業所における相談内容や、相談を通じて把握する地域課題など、アンケート調査からは見えてこない課題や当事者等のニーズを把握することを目的として、事前調査票の配布とヒアリング調査を実施。

2. 調査の概要

(1) 障害者向けアンケート

- ・目的: 障害当事者の日常生活の実態や障害福祉に対するニーズなどを把握するため
- ・調査地域: 柏市全域
- ・調査期間: 2022年8月10日(水)~9月16日(金)
- ・調査方法: 郵送で調査票を配布・回収(インターネットでの回答可)
- ・調査対象: 下表の対象者要件に該当する方について、無作為に対象者を抽出

なお、18歳以上の年齢区分における対象者ごとの人数については、市内の対象者要件に該当する人数(令和3年度末時点)の割合に応じて設定を行った。

年齢区分	対象者要件	人数
18歳以上	身体障害者手帳	1,400
	療育手帳	250
	精神障害者手帳+受給者証(精神通院)	950
	特定疾病療養者見舞金	400
18歳未満	各手帳+受給者証(福祉サービス)	500
	合計	3,500

- ・調査票の記入にあたる留意点: 調査票は基本的に障害当事者である宛名の本人に回答を依頼しているが、本人が記入できない場合は代理の方が本人の立場になって記入している。
- ・回収結果:

	今回調査	前回調査(RI 実施)
配布数	3,446 票 (対象3,500票-郵便不着54票)	3,472 票
回収数	1,583 票(白票12票含む) 回答方法内訳: 紙1,281票, インターネット302票	1,861 票 (無効票1票・白票5票含む)
回収率	45.9%(有効回答率45.6%)	53.6%(有効回答率53.4%)

(2) 市民向けアンケート

- ・目的:一般市民の障害に関する意識や関心,障害者との交流機会などを把握するため
- ・調査地域:柏市全域
- ・調査期間:2022年8月10日(水)~9月16日(金)
- ・調査方法:郵送で調査票を配布・回収(インターネットでの回答可)※前回調査から方法変更
- ・調査対象:18歳以上の市民1,000人を無作為に抽出
- ・回収結果:

配布数	991票(対象1,000票-郵便不着9票)
回収数	389票(白票5票含む) 回答方法内訳:紙273票,インターネット116票
回収率	39.3%(有効回答率38.7%)

(3) 障害福祉関係団体ヒアリング

- ・目的:各団体における活動実態や課題,優先的取組などを聞き取るため
- ・調査期間:2022年9月28日(水)~9月30日(金)
- ・調査方法:事前に調査票を配布し,後日詳細について聞き取り調査(ヒアリング)を実施
- ・調査対象:以下の9団体

団体名	略称	関連する障害種別
柏市視覚障害者協会	視覚	視覚障害
柏市聴覚障害者協会	柏聴協	聴覚障害
千葉県中途失聴者・難聴者協会柏地区会	中難協	聴覚障害
柏市肢体不自由児(者)を育てる会	育てる会	肢体不自由
柏市手をつなぐ育成会	育成会	知的障害
柏市自閉症協会	自閉症	発達障害
精神障害者家族会よつば会	よつば	精神障害
東葛菜の花「高次脳機能障害者と家族の会」	高次脳	高次脳機能障害
パーキンソン病友の会	友の会	難病

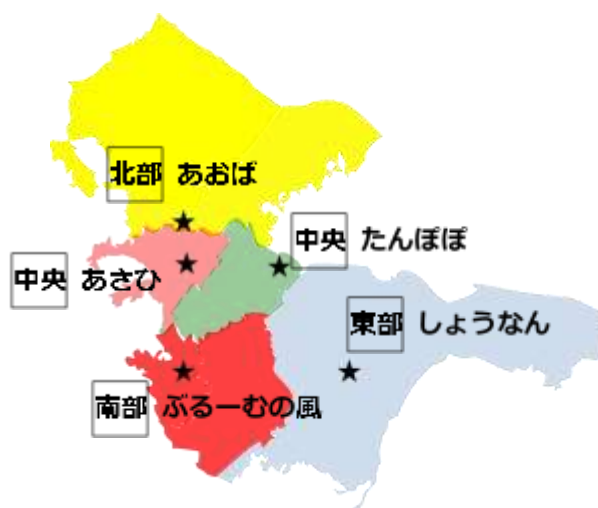
(4) 委託相談支援事業所ヒアリング

- ・目的:各事業所における地区ごとの活動実態や課題,対応策などを聞き取るため
- ・調査期間:2022年9月27日(火)及び9月30日(金)
- ・調査方法:事前に調査票を配布し,後日詳細について聞き取り調査(ヒアリング)を実施
- ・調査対象:市内の4つの地区をそれぞれ担当する以下の5事業所

事業所名	担当地区
社会福祉法人青葉会 地域生活相談センターシャル	北部
社会福祉法人ワナーホーム たんぼぼセンター	中央
特定非営利活動法人権利擁護あさひ	中央
社会福祉法人ぶるーむ ぶるーむの風相談室	南部
社会福祉法人桐友学園 サポートセンター沼南	東部

*委託相談支援事業所とは

本市では,地域で身近な相談ができるように,柏市指定相談支援事業所のうち5か所に相談支援事業を委託しています。これら委託相談支援事業所では,福祉サービスの利用やその他さまざまな相談に対応するほか,地域における相談支援・ケアマネジメント体制強化のための研修や人材交流等を行っています。



第2章 基礎調査結果の概要（ページイメージ）

ノーマライゼーションかしわプラン2021は、4つの柱を基本方針とし、柱ごとに施策や具体的な取組を実施しています。

第2章では、現行プランの柱ごとに、本調査の結果概要をまとめます。

《ノーマライゼーションかしわプラン 2021 施策体系表》

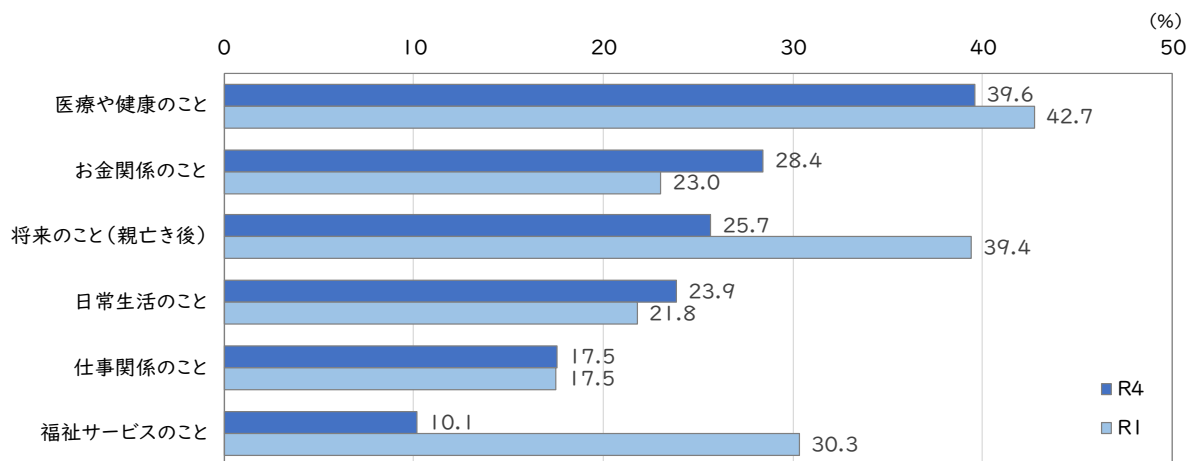
大施策【柱】	中施策【施策】	取組例
柱1 みんなで守り 寄り添う共生の まちづくり	1 包括的相談支援 体制の構築(重 点)	相談支援・ケアマネジメント体制の充実
		福祉の総合相談窓口の設置
	2 権利擁護体制の 充実	成年後見制度の利用支援
		虐待防止・権利擁護体制の充実
		障害者差別解消法の周知及び理解啓発
	3 情報提供の充実	情報提供の充実
意思疎通支援の充実		
柱2 みんなで支え 安心して暮らせ る共生のまちづ くり	4 暮らしを支える 基盤整備(重点)	地域生活を支える場の充実
		高齢障害・重度障害に対応した居住環境の整備
	5 暮らしを支える サービスの充実	訪問系サービスの支援
		日中活動系サービスの支援
	6 安全・安心な 生活環境の整備	災害や感染症, 犯罪等から守る体制の整備
		バリアフリー化等の推進
柱3 みんながその 人らしく社会参 加できる共生 のまちづくり	7 就労支援の強化 (重点)	就労支援体制の充実
		工賃向上の取組強化
	8 拠点機能の整備 による社会参加活 動・交流事業の推 進(重点)	多様な社会参加・交流の場の拡充
		学びの場の充実
	9 共生意識の醸成と 支え合いの 地域づくりの推進	共生意識の醸成
		協働による福祉活動の充実
柱4 みんなが健や かに成長でき る共生のまちづ くり	10 乳幼児期における 支援の充実	障害の早期発見から健やかな 成長のための療育支援の充実
		こども園・幼稚園・保育園等への支援の強化
		放課後等支援の充実
	11 学齢期における 支援の充実	インクルーシブ教育システムの構築
		放課後等支援の充実
	12 医療・ケア体制の 充実(重点)	医療的ケア等の支援体制の充実
精神障害にも対応した支援及び医療サービ ス等の充実		

柱Ⅰ みんなで守り寄り添う共生のまちづくり

【施策Ⅰ】包括的相談支援体制の構築（重点）

① アンケート調査結果

○全員 現在悩んでいることや困っていること（障害者・問25）



悩みや困り事の上位項目を前回調査と比較すると、最上位は前回調査同様「医療や健康のこと」となっています。ついで「お金関係のこと」が約5ポイント増加した一方、「将来のこと（親亡き後）」が約14ポイント、「福祉サービスのこと」が約20ポイント減少しました。

◆その他の設問の傾向

○全員 悩みや困りごとの相談先（障害者・問26）

「家族」が最も多く6割程度で、ついで「友人・知人」が3割近く、「医療機関」が2割程度となっています。

（記載方針）

- ・中施策単位で、見開き1ページに、①アンケート結果、②ヒアリング結果、③まとめ、④課題ごとに結果概要を記載します。
- ・原則、関連する設問すべてについて結果を記載する方針とし、そのうち、顕著な傾向が確認できるものについてグラフ等を使用して、順に掲載します。
- ・設問ごとに、全体あるいは特定の年代に限定した回答傾向のポイントを記載します。
（○全員、★就学前、◇就学後、☆成人、■高齢）

②ヒアリング結果

【障害関係団体ヒアリング】

- ・(柱の中施策レベルに関連する調査結果の概要(障害関係団体全体としての傾向)を記載)
- ・

【事業所ヒアリング】

- ・(柱の中施策レベルに関連する調査結果の概要(全市的な傾向)を記載)
- ・

③まとめ

- ・(取組(小施策)単位でアンケート+ヒアリング結果の傾向(ポイントのみ)を箇条書き)

④課題

〈相談支援・ケアマネジメント体制〉

- ・(まとめに対応する課題を,小施策単位で箇条書き)

〈福祉の総合相談窓口〉

・

- ・設問文とコメント
- ・全体グラフ, 前回調査との比較含む
- ・全体の障害種別の表
- ・年代別の障害種別の表

I. 障害者向けアンケート

各質問項目の回答結果

情報アクセシビリティ

問16. 主にどこから障害福祉に関する情報を入手していますか。

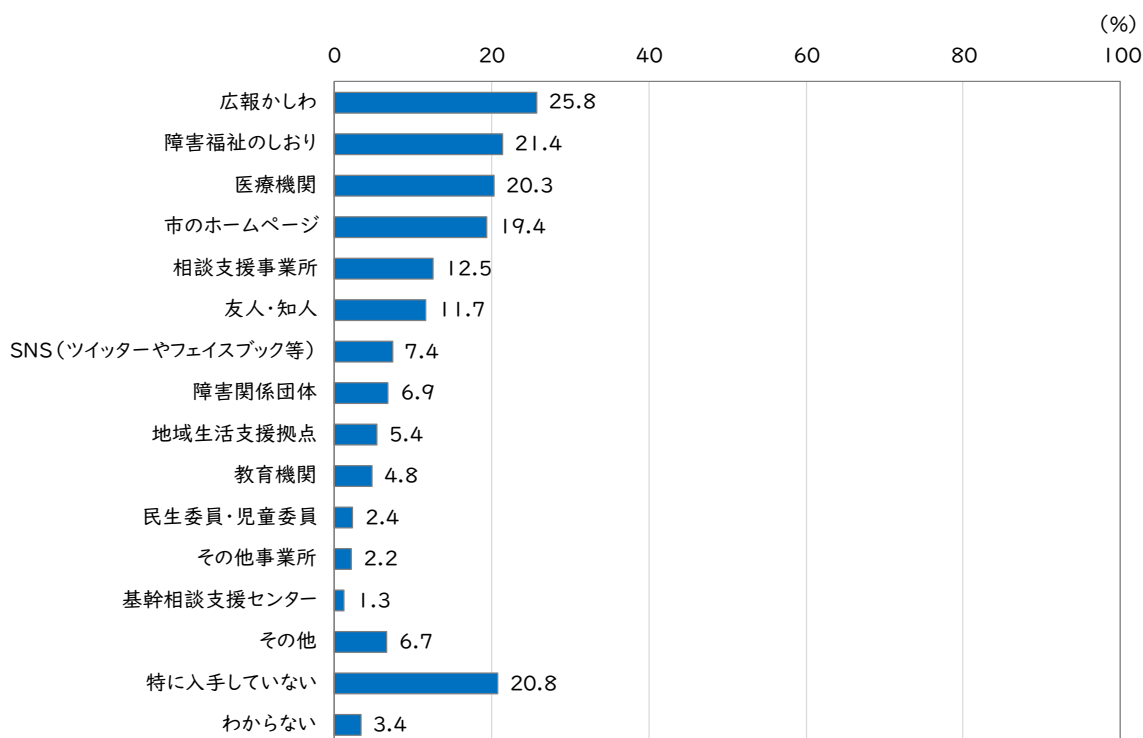
ご家族から情報を入手している場合には、ご家族がどこから情報を入手しているかお答えください。(〇はいくつでも)。

全体 「広報かしわ」が最も多く3割近く、続いて「障害福祉のしおり」「医療機関」「市のホームページ」がそれぞれ2割程度となっています。

年代別 児童では「相談支援事業所」が4割程度、「教育機関」「市のホームページ」が3割程度となっています。成人では「市のホームページ」が最も多く3割近くとなっています。高齢者では「広報かしわ」が最も多く4割程度を占めており、他の年代と比べ多くなっています。

障害別 全体をみると、知的障害や発達障害では「相談支援事業所」、精神障害と難病では「医療機関」がそれぞれ最も多いという特徴がみられます。

【全体】



(単位:%)

全体	★ 全障害	視覚	聴覚	肢体	内部	知的	発達	精神	高次脳	難病	未認定	その他/ わからない
有効回答数(人)	1,460	68	118	328	268	240	189	294	32	151	49	85
広報かしわ	25.8	38.2	39.8	29.3	37.7	20.8	14.8	15.6	12.5	26.5	14.3	22.4
障害福祉のしおり	21.4	29.4	26.3	20.7	27.2	29.6	23.8	22.8	15.6	10.6	2.0	17.6
医療機関	20.3	11.8	15.3	16.5	22.8	13.3	23.8	34.0	15.6	33.8	4.1	18.8
市のホームページ	19.4	16.2	11.9	17.7	18.7	15.8	32.3	24.5	9.4	11.3	28.6	16.5
相談支援事業所	12.5	8.8	5.1	9.8	3.4	40.0	38.6	11.9	12.5	6.0	12.2	14.1
友人・知人	11.7	7.4	11.0	8.8	6.7	29.6	23.8	10.9	3.1	10.6	10.2	14.1
SNS(ツイッターやフェイスブック等)	7.4	5.9	2.5	5.2	1.9	6.3	16.9	13.9	3.1	6.0	14.3	7.1
障害関係団体	6.9	5.9	5.1	6.1	3.7	20.0	15.9	7.8	9.4	6.6	6.1	2.4
地域生活支援拠点	5.4	5.9	7.6	7.6	5.2	5.4	2.6	3.7	18.8	10.6	4.1	3.5
教育機関	4.8	0.0	0.8	1.8	0.7	19.6	17.5	2.7	0.0	2.6	8.2	5.9
民生委員・児童委員	2.4	1.5	5.1	3.4	4.1	1.3	1.1	1.4	3.1	2.6	0.0	4.7
その他事業所	2.2	2.9	0.8	3.0	1.1	3.3	3.7	1.4	3.1	2.6	6.1	0.0
基幹相談支援センター	1.3	1.5	3.4	0.9	1.5	2.5	2.1	0.7	3.1	2.0	0.0	1.2
その他	6.7	10.3	11.0	9.1	4.5	5.0	6.9	5.8	25.0	5.3	8.2	14.1
特に入手していない	20.8	17.6	19.5	19.2	22.4	11.3	11.1	22.4	9.4	29.1	32.7	23.5
わからない	3.4	1.5	3.4	3.0	2.6	4.2	3.2	4.1	0.0	4.0	4.1	2.4

【年代別の障害種別】

(単位:%)

児童	★ 全障害	視覚	聴覚	肢体	内部	知的	発達	精神	高次脳	難病	未認定	その他/ わからない
有効回答数(人)	206	1	6	18	3	102	101	13	0	7	25	14
広報かしわ	13.1	0.0	16.7	5.6	33.3	15.7	14.9	30.8	*	28.6	12.0	21.4
障害福祉のしおり	19.9	100.0	33.3	44.4	100.0	26.5	18.8	38.5	*	42.9	0.0	0.0
医療機関	20.9	0.0	16.7	55.6	33.3	22.5	23.8	46.2	*	42.9	8.0	21.4
市のホームページ	29.1	0.0	16.7	33.3	33.3	19.6	30.7	15.4	*	14.3	40.0	28.6
相談支援事業所	38.8	0.0	16.7	44.4	33.3	48.0	45.5	23.1	*	57.1	24.0	50.0
友人・知人	26.7	0.0	33.3	44.4	33.3	36.3	29.7	30.8	*	57.1	16.0	28.6
SNS(ツイッターやフェイスブック等)	13.6	100.0	0.0	11.1	0.0	8.8	14.9	0.0	*	0.0	24.0	14.3
障害関係団体	10.2	0.0	16.7	11.1	0.0	14.7	14.9	15.4	*	14.3	8.0	7.1
地域生活支援拠点	2.9	0.0	16.7	5.6	0.0	2.0	2.0	0.0	*	14.3	4.0	0.0
教育機関	30.6	0.0	0.0	22.2	33.3	42.2	31.7	46.2	*	42.9	16.0	35.7
民生委員・児童委員	0.5	0.0	16.7	0.0	0.0	1.0	1.0	0.0	*	0.0	0.0	0.0
その他事業所	4.9	0.0	0.0	5.6	0.0	2.0	5.0	0.0	*	0.0	12.0	0.0
基幹相談支援センター	1.9	0.0	0.0	0.0	0.0	2.9	2.0	0.0	*	0.0	0.0	0.0
その他	4.9	0.0	0.0	0.0	0.0	3.9	6.9	0.0	*	0.0	4.0	14.3
特に入手していない	9.7	0.0	33.3	11.1	0.0	10.8	7.9	15.4	*	0.0	12.0	0.0
わからない	2.4	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	2.0	0.0	*	0.0	4.0	7.1

(単位:%)

成人	★ 全障害	視覚	聴覚	肢体	内部	知的	発達	精神	高次脳	難病	未認定	その他/ わからない
有効回答数(人)	623	20	31	95	59	130	85	238	15	66	15	33
広報かしわ	18.3	15.0	29.0	17.9	27.1	25.4	14.1	13.0	13.3	22.7	13.3	18.2
障害福祉のしおり	24.4	35.0	35.5	22.1	39.0	31.5	29.4	23.5	26.7	13.6	6.7	21.2
医療機関	22.0	15.0	9.7	18.9	23.7	6.9	23.5	33.2	20.0	34.8	0.0	12.1
市のホームページ	24.7	15.0	19.4	28.4	37.3	13.1	34.1	27.3	13.3	19.7	20.0	24.2
相談支援事業所	13.2	20.0	9.7	13.7	5.1	33.8	31.8	12.6	13.3	3.0	0.0	15.2
友人・知人	10.8	5.0	9.7	4.2	6.8	23.8	17.6	11.3	0.0	4.5	0.0	12.1
SNS(ツイッターやフェイスブック等)	11.4	5.0	9.7	10.5	5.1	4.6	20.0	17.2	6.7	10.6	6.7	12.1
障害関係団体	9.3	10.0	9.7	9.5	6.8	23.8	17.6	8.0	13.3	10.6	6.7	3.0
地域生活支援拠点	3.9	5.0	6.5	5.3	3.4	7.7	3.5	3.8	13.3	4.5	0.0	3.0
教育機関	1.0	0.0	3.2	1.1	1.7	3.1	1.2	0.8	0.0	1.5	0.0	0.0
民生委員・児童委員	1.3	0.0	3.2	1.1	3.4	1.5	1.2	1.7	6.7	1.5	0.0	3.0
その他事業所	1.6	0.0	0.0	3.2	1.7	3.8	2.4	1.7	0.0	3.0	0.0	0.0
基幹相談支援センター	1.3	0.0	3.2	1.1	1.7	2.3	2.4	0.8	0.0	1.5	0.0	3.0
その他	7.4	10.0	19.4	9.5	1.7	5.4	7.1	5.9	33.3	6.1	20.0	24.2
特に入手していない	23.0	15.0	22.6	20.0	20.3	12.3	15.3	22.7	6.7	31.8	53.3	24.2
わからない	4.5	0.0	6.5	3.2	3.4	6.9	4.7	3.8	0.0	7.6	6.7	3.0

(単位:%)

高齢者	★ 全障害	視覚	聴覚	肢体	内部	知的	発達	精神	高次脳	難病	未認定	その他/ わからない
有効回答数(人)	613	46	79	209	203	7	2	41	17	76	9	36
広報かしわ	37.7	50.0	46.8	36.4	40.9	14.3	50.0	26.8	11.8	30.3	22.2	25.0
障害福祉のしおり	18.6	23.9	20.3	17.7	22.7	28.6	50.0	14.6	5.9	5.3	0.0	22.2
医療機関	18.6	8.7	17.7	12.0	22.7	0.0	50.0	36.6	11.8	32.9	0.0	22.2
市のホームページ	10.4	15.2	8.9	11.0	12.8	14.3	0.0	12.2	5.9	3.9	11.1	5.6
相談支援事業所	3.1	4.3	2.5	4.8	2.5	42.9	0.0	2.4	11.8	3.9	0.0	0.0
友人・知人	7.7	6.5	10.1	7.7	6.4	42.9	0.0	2.4	5.9	11.8	11.1	11.1
SNS(ツイッターやフェイスブック等)	1.3	2.2	0.0	2.4	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.6	0.0	0.0
障害関係団体	3.4	4.3	2.5	4.3	3.0	28.6	0.0	2.4	5.9	2.6	0.0	0.0
地域生活支援拠点	8.0	6.5	7.6	9.1	5.9	14.3	0.0	4.9	23.5	15.8	11.1	5.6
教育機関	0.2	0.0	0.0	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
民生委員・児童委員	4.2	2.2	5.1	4.8	4.4	0.0	0.0	0.0	0.0	3.9	0.0	8.3
その他事業所	1.8	2.2	1.3	2.9	1.0	14.3	0.0	0.0	5.9	2.6	0.0	0.0
基幹相談支援センター	1.1	2.2	3.8	1.0	1.5	0.0	0.0	0.0	5.9	2.6	0.0	0.0
その他	6.9	10.9	8.9	10.0	5.4	14.3	0.0	7.3	17.6	5.3	0.0	5.6
特に入手していない	22.3	19.6	17.7	19.6	22.7	0.0	0.0	24.4	11.8	27.6	55.6	33.3
わからない	2.6	2.2	2.5	3.3	2.5	0.0	0.0	7.3	0.0	1.3	0.0	0.0

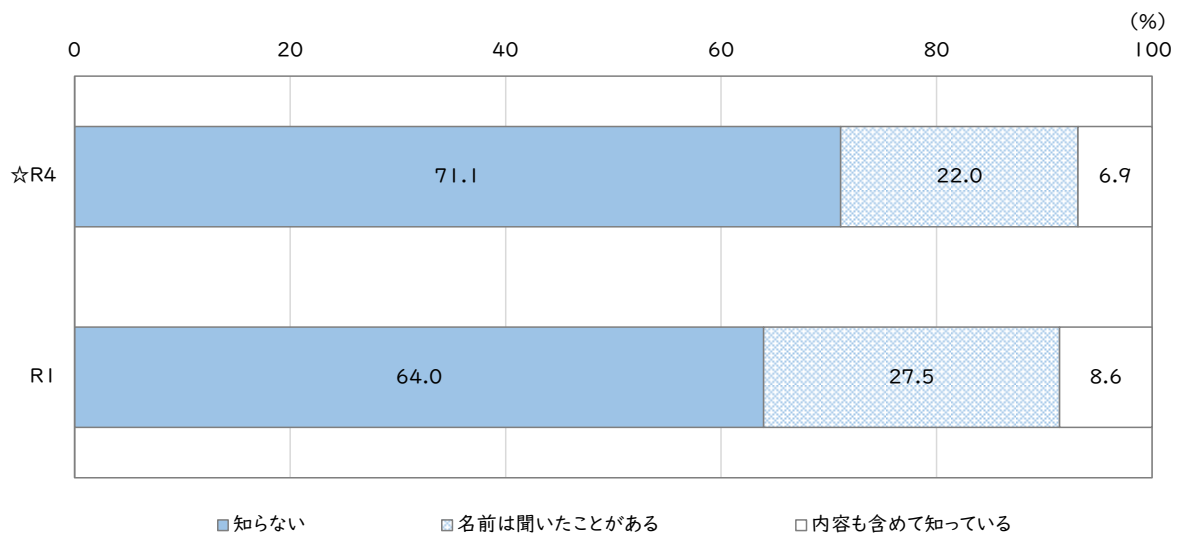
問 19. 障害者差別解消法を知っていますか(○はひとつ)。

全体 「知らない」が最も多く7割程度となっています。一方、「名前は聞いたことがある」は2割程度、「内容も含めて知っている」は1割を下回っています。

年代別 年代ごとに「知らない」の割合を比べると、児童と成人では6割台であるのに対し、高齢者は8割程度で、若い世代ほど本法が認識されていることがうかがえます。

障害別 全体をみると、特に難病、高次脳、視覚障害、内部障害では「知らない」が8割程度で、他の障害と比べ多くなっています。一方、知的障害や発達障害では「名前は聞いたことがある」が3割程度、「内容も含めて知っている」が1割を超えており、他の障害と比べ多い傾向がみられます。

【全体】



(単位:%)

全体	★ 全障害	視覚	聴覚	肢体	内部	知的	発達	精神	高次脳	難病	未認定	その他/ わからない
有効回答数(人)	1,471	69	116	329	277	237	188	296	29	157	49	83
知らない	71.1	78.3	64.7	68.4	76.5	57.0	56.9	72.0	79.3	80.9	67.3	73.5
名前は聞いたことがある	22.0	17.4	25.9	25.5	18.8	31.6	29.8	21.3	17.2	15.9	24.5	18.1
内容も含めて知っている	6.9	4.3	9.5	6.1	4.7	11.4	13.3	6.8	3.4	3.2	8.2	8.4

【年代別の障害種別】

(単位:%)

児童	★ 全障害	視覚	聴覚	肢体	内部	知的	発達	精神	高次脳	難病	未認定	その他/ わからない
有効回答数(人)	203	1	6	18	3	101	99	13	0	7	24	14
知らない	64.5	100.0	50.0	33.3	66.7	55.4	58.6	53.8	*	28.6	79.2	64.3
名前は聞いたことがある	26.1	0.0	50.0	44.4	33.3	35.6	30.3	46.2	*	42.9	12.5	14.3
内容も含めて知っている	9.4	0.0	0.0	22.2	0.0	8.9	11.1	0.0	*	28.6	8.3	21.4

(単位:%)

成人	★ 全障害	視覚	聴覚	肢体	内部	知的	発達	精神	高次脳	難病	未認定	その他/ わからない
有効回答数(人)	629	20	29	94	63	127	86	242	15	67	16	32
知らない	66.8	85.0	58.6	63.8	63.5	56.7	55.8	69.4	73.3	76.1	50.0	75.0
名前は聞いたことがある	24.2	10.0	17.2	28.7	30.2	29.1	27.9	22.3	20.0	20.9	37.5	21.9
内容も含めて知っている	9.1	5.0	24.1	7.4	6.3	14.2	16.3	8.3	6.7	3.0	12.5	3.1

(単位:%)

高齢者	★ 全障害	視覚	聴覚	肢体	内部	知的	発達	精神	高次脳	難病	未認定	その他/ わからない
有効回答数(人)	620	47	79	211	209	8	2	38	14	81	9	35
知らない	77.7	76.6	67.1	73.0	80.9	75.0	50.0	92.1	85.7	90.1	66.7	77.1
名前は聞いたことがある	18.4	19.1	27.8	22.7	15.3	25.0	50.0	7.9	14.3	8.6	33.3	14.3
内容も含めて知っている	3.9	4.3	5.1	4.3	3.8	0.0	0.0	0.0	0.0	1.2	0.0	8.6

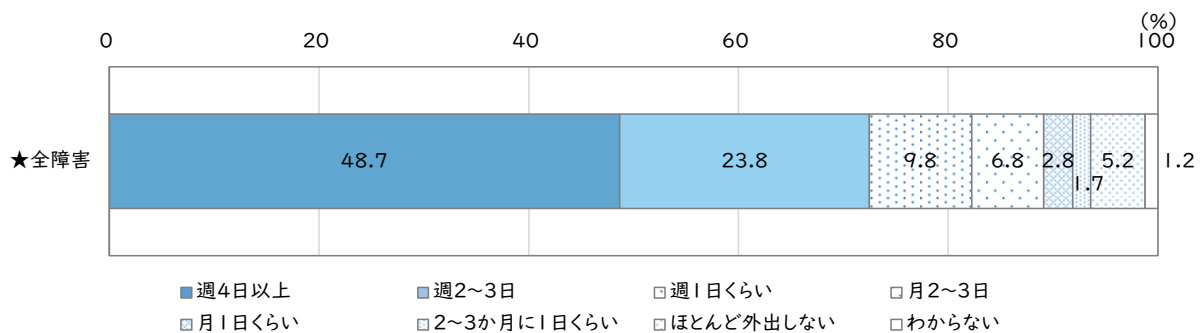
問 65.ここ1年間でどのくらい外出しましたか(○はひとつ)。

全体 「週4日以上」が最も多く5割程度, ついで「週2~3日」が2割程度, 「週1日くらい」が1割程度となっています。外出頻度が「月2~3日」未満という回答が2割程度あります。

年代別 年代ごとに「週4日以上」の割合を比べると, 児童が8割程度, 成人が5割程度, 高齢者が3割程度で, 高齢になるほど外出頻度が減少していることがうかがえます。

障害別 全体をみると, 知的障害, 発達障害では「週4日以上」が6割~7割に達している一方, 視覚障害, 聴覚障害, 高次脳では1割~3割にとどまっています。

【全体】



(単位: %)

全体	★全障害	視覚	聴覚	肢体	内部	知的	発達	精神	高次脳	難病	未認定	その他/わからない
有効回答数(人)	1,403	64	107	308	258	228	181	289	27	153	48	77
週4日以上	48.7	32.8	28.0	37.0	42.2	64.5	68.5	46.0	14.8	45.8	70.8	46.8
週2~3日	23.8	28.1	32.7	22.1	30.2	10.5	16.6	27.3	25.9	25.5	16.7	27.3
週1日くらい	9.8	4.7	15.0	12.0	8.5	7.5	7.2	13.5	11.1	9.8	6.3	7.8
月2~3日	6.8	14.1	6.5	8.8	9.3	6.6	5.5	3.5	11.1	5.9	4.2	7.8
ほとんど外出しない	5.2	9.4	9.3	11.7	3.9	4.8	1.1	3.1	29.6	5.9	2.1	6.5
月1日くらい	2.8	4.7	2.8	3.6	2.7	2.2	1.1	4.8	0.0	2.0	0.0	1.3
2~3か月に1日くらい	1.7	3.1	1.9	3.2	2.3	2.6	0.0	0.3	3.7	3.9	0.0	1.3
わからない	1.2	3.1	3.7	1.6	0.8	1.3	0.0	1.4	3.7	1.3	0.0	1.3

【年代別の障害種別】

(単位:%)

児童	★ 全障害	視覚	聴覚	肢体	内部	知的	発達	精神	高次脳	難病	未認定	その他/ わからない
有効回答数(人)	202	1	6	18	3	99	100	13	0	7	25	14
週4日以上	77.7	100.0	50.0	77.8	33.3	76.8	83.0	84.6	*	85.7	76.0	71.4
週2～3日	11.4	0.0	16.7	5.6	33.3	6.1	12.0	7.7	*	14.3	16.0	14.3
週1日くらい	3.0	0.0	0.0	0.0	33.3	5.1	1.0	0.0	*	0.0	4.0	0.0
月2～3日	4.0	0.0	16.7	5.6	0.0	5.1	4.0	0.0	*	0.0	4.0	7.1
ほとんど外出しない	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	7.7	*	0.0	0.0	0.0
月1日くらい	0.5	0.0	0.0	5.6	0.0	1.0	0.0	0.0	*	0.0	0.0	0.0
2～3か月に1日くらい	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	*	0.0	0.0	0.0
わからない	2.0	0.0	16.7	5.6	0.0	3.0	0.0	0.0	*	0.0	0.0	7.1

(単位:%)

成人	★ 全障害	視覚	聴覚	肢体	内部	知的	発達	精神	高次脳	難病	未認定	その他/ わからない
有効回答数(人)	607	20	27	90	60	121	78	236	14	68	14	31
週4日以上	54.4	50.0	25.9	50.0	66.7	57.9	51.3	44.9	28.6	54.4	71.4	54.8
週2～3日	21.6	15.0	48.1	15.6	23.3	13.2	23.1	28.4	28.6	26.5	7.1	19.4
週1日くらい	10.0	5.0	14.8	7.8	1.7	8.3	14.1	14.8	14.3	10.3	14.3	9.7
月2～3日	5.6	15.0	3.7	8.9	5.0	8.3	6.4	2.5	7.1	4.4	0.0	9.7
ほとんど外出しない	4.0	10.0	3.7	8.9	1.7	5.8	2.6	3.0	21.4	1.5	7.1	3.2
月1日くらい	2.5	0.0	0.0	4.4	1.7	3.3	2.6	4.2	0.0	1.5	0.0	0.0
2～3か月に1日くらい	1.0	5.0	3.7	3.3	0.0	3.3	0.0	0.4	0.0	0.0	0.0	3.2
わからない	1.0	0.0	0.0	1.1	0.0	0.0	0.0	1.7	0.0	1.5	0.0	0.0

(単位:%)

高齢者	★ 全障害	視覚	聴覚	肢体	内部	知的	発達	精神	高次脳	難病	未認定	その他/ わからない
有効回答数(人)	575	42	72	194	192	7	2	37	13	77	9	30
週4日以上	32.7	21.4	26.4	27.3	34.9	14.3	0.0	43.2	0.0	33.8	55.6	26.7
週2～3日	30.4	35.7	29.2	26.8	31.8	28.6	0.0	27.0	23.1	26.0	33.3	40.0
週1日くらい	11.8	4.8	16.7	15.5	10.4	14.3	50.0	8.1	7.7	10.4	0.0	10.0
月2～3日	9.0	14.3	6.9	8.8	10.9	0.0	50.0	8.1	15.4	7.8	11.1	6.7
ほとんど外出しない	8.0	9.5	12.5	13.9	4.7	28.6	0.0	2.7	38.5	10.4	0.0	13.3
月1日くらい	4.0	7.1	4.2	3.1	3.1	0.0	0.0	10.8	0.0	2.6	0.0	3.3
2～3か月に1日くらい	3.0	2.4	1.4	3.6	3.1	14.3	0.0	0.0	7.7	7.8	0.0	0.0
わからない	1.0	4.8	2.8	1.0	1.0	0.0	0.0	0.0	7.7	1.3	0.0	0.0

問 66. (問65で「8. わからない」と答えた方以外の方にお伺いします。)

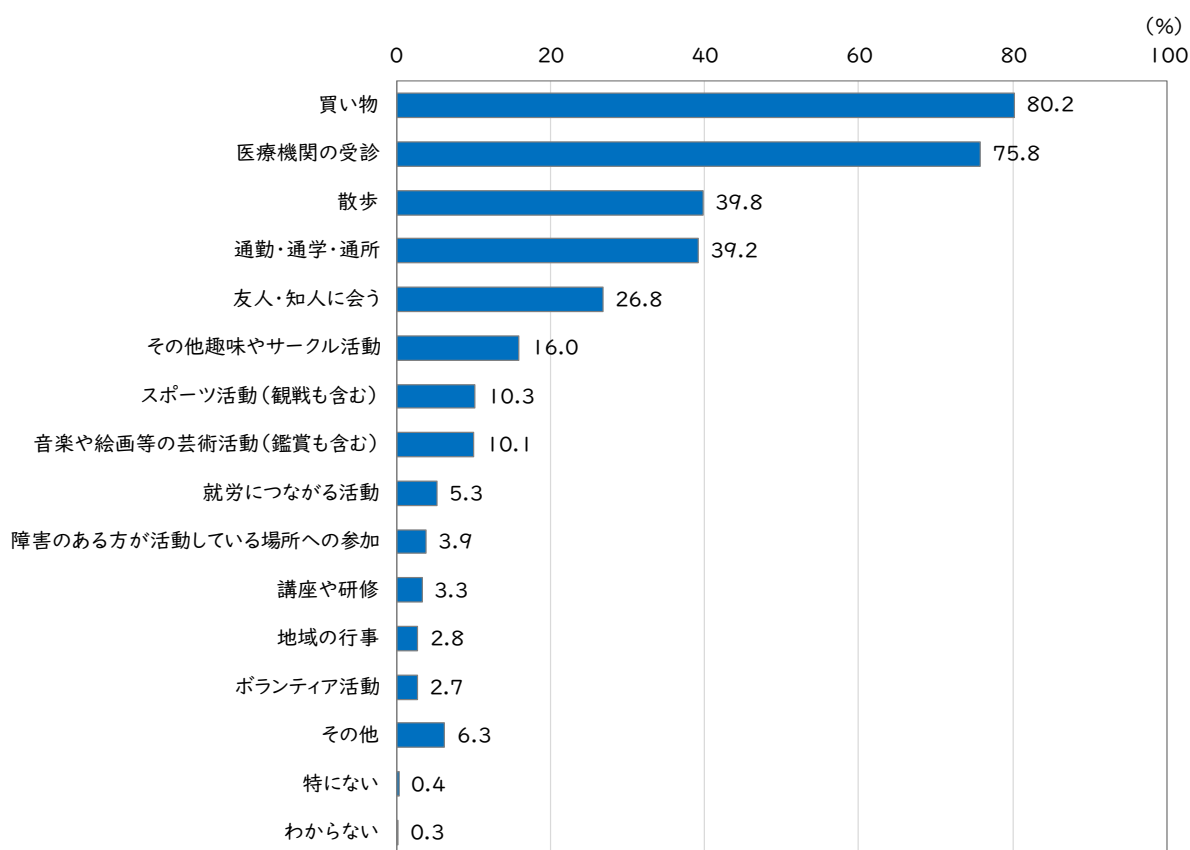
外出目的は何ですか(○はいくつでも)。

全体 「買い物」が最も多く8割程度、ついで「医療機関の受診」が8割近くとなっています。このほか、「散歩」と「通勤・通学・通所」がそれぞれ4割程度、「友人・知人に会う」が3割程度で上位となっています。

年代別 児童は「通勤・通学・通所」、成人は「買い物」、高齢者は「医療機関の受診」がそれぞれ最も多く8割台となっています。

障害別 全体をみると、いずれの障害でも「買い物」と「医療機関の受診」が上位となっています。加えて、知的障害、発達障害では「通勤・通学・通所」が7割程度で、他の障害と比べ多い傾向がみられます。

【全体】



(単位:%)

全体	★ 全障害	視覚	聴覚	肢体	内部	知的	発達	精神	高次脳	難病	未認定	その他/ わからない
有効回答数(人)	1,140	51	89	251	216	188	141	239	23	127	36	60
買い物	80.2	64.7	75.3	72.1	81.5	73.9	80.1	87.9	47.8	76.4	86.1	86.7
医療機関の受診	75.8	78.4	78.7	77.3	88.9	57.4	59.6	83.7	78.3	82.7	66.7	70.0
散歩	39.8	27.5	39.3	26.7	48.1	37.8	40.4	42.7	30.4	44.1	47.2	43.3
通勤・通学・通所	39.2	17.6	20.2	26.7	18.5	73.4	73.0	38.5	21.7	39.4	66.7	35.0
友人・知人に会う	26.8	11.8	22.5	18.7	24.5	17.6	23.4	36.4	13.0	24.4	58.3	41.7
その他趣味やサークル活動	16.0	15.7	19.1	13.1	19.0	12.8	15.6	15.1	4.3	12.6	19.4	20.0
スポーツ活動(観戦も含む)	10.3	3.9	6.7	9.6	10.2	9.6	11.3	9.6	8.7	11.8	16.7	10.0
音楽や絵画等の芸術活動(鑑賞も含む)	10.1	3.9	11.2	6.0	9.3	9.6	7.1	13.4	4.3	10.2	19.4	10.0
就労につながる活動	5.3	3.9	3.4	1.6	4.2	5.3	7.1	14.2	4.3	7.1	2.8	6.7
障害のある方が活動している場所への参加	3.9	2.0	5.6	4.4	2.3	8.0	9.2	5.4	0.0	0.0	0.0	5.0
講座や研修	3.3	2.0	2.2	2.4	4.6	1.1	0.0	3.3	4.3	2.4	11.1	10.0
地域の行事	2.8	2.0	5.6	3.6	3.7	0.5	0.0	1.3	0.0	2.4	2.8	6.7
ボランティア活動	2.7	3.9	1.1	3.2	4.2	1.6	2.1	2.1	0.0	2.4	5.6	0.0
その他	6.3	5.9	9.0	7.2	4.2	8.5	9.2	5.4	8.7	8.7	8.3	8.3
特にな	0.4	2.0	0.0	0.8	0.5	0.0	0.7	0.0	4.3	0.0	0.0	1.7
わからない	0.3	0.0	1.1	0.4	0.0	0.0	0.7	0.4	4.3	0.0	0.0	0.0

【年代別の障害種別】

(単位:%)

児童	★ 全障害	視覚	聴覚	肢体	内部	知的	発達	精神	高次脳	難病	未認定	その他/ わからない
有効回答数(人)	162	1	2	16	3	83	80	12	0	6	19	11
買い物	74.1	100.0	100.0	50.0	66.7	73.5	75.0	83.3	*	66.7	78.9	72.7
医療機関の受診	56.2	0.0	100.0	68.8	66.7	60.2	57.5	83.3	*	100.0	52.6	63.6
散歩	36.4	0.0	50.0	25.0	0.0	28.9	40.0	50.0	*	66.7	52.6	54.5
通勤・通学・通所	87.7	100.0	50.0	100.0	66.7	89.2	87.5	83.3	*	100.0	84.2	81.8
友人・知人に会う	27.2	100.0	0.0	18.8	33.3	18.1	20.0	33.3	*	16.7	57.9	63.6
その他趣味やサークル活動	9.3	0.0	0.0	12.5	33.3	10.8	12.5	8.3	*	0.0	10.5	0.0
スポーツ活動(観戦も含む)	13.6	0.0	0.0	12.5	33.3	13.3	12.5	25.0	*	16.7	15.8	0.0
音楽や絵画等の芸術活動(鑑賞も含む)	7.4	0.0	50.0	0.0	0.0	9.6	6.3	8.3	*	16.7	10.5	0.0
就労につながる活動	4.9	0.0	50.0	0.0	0.0	8.4	5.0	25.0	*	16.7	0.0	0.0
障害のある方が活動している場所への参加	9.3	0.0	100.0	18.8	33.3	10.8	10.0	16.7	*	0.0	0.0	18.2
講座や研修	1.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	*	0.0	5.3	9.1
地域の行事	3.1	0.0	0.0	6.3	0.0	1.2	0.0	0.0	*	0.0	5.3	18.2
ボランティア活動	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.3	0.0	*	0.0	0.0	0.0
その他	11.1	0.0	0.0	6.3	0.0	12.0	11.3	0.0	*	0.0	15.8	27.3
特にな	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	*	0.0	0.0	0.0
わからない	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	*	0.0	0.0	0.0

(単位:%)

成人	★ 全障害	視覚	聴覚	肢体	内部	知的	発達	精神	高次脳	難病	未認定	その他/ わからない
有効回答数(人)	493	17	26	73	48	100	59	195	13	54	10	27
買い物	85.0	70.6	80.8	75.3	83.3	75.0	86.4	89.2	61.5	87.0	100.0	85.2
医療機関の受診	74.0	64.7	73.1	72.6	83.3	54.0	62.7	83.6	76.9	75.9	80.0	66.7
散歩	37.3	11.8	26.9	26.0	39.6	46.0	40.7	41.0	30.8	35.2	40.0	33.3
通勤・通学・通所	51.9	41.2	46.2	45.2	52.1	64.0	55.9	41.5	30.8	55.6	70.0	40.7
友人・知人に会う	30.8	0.0	38.5	23.3	20.8	17.0	27.1	37.4	15.4	35.2	60.0	33.3
その他趣味やサークル活動	14.0	5.9	26.9	11.0	4.2	15.0	20.3	14.4	7.7	9.3	30.0	11.1
スポーツ活動(観戦も含む)	10.1	0.0	7.7	11.0	8.3	7.0	10.2	8.7	15.4	16.7	20.0	7.4
音楽や絵画等の芸術活動(鑑賞も含む)	13.6	5.9	7.7	9.6	14.6	9.0	8.5	14.4	7.7	14.8	40.0	7.4
就労につながる活動	9.3	5.9	0.0	4.1	14.6	3.0	10.2	15.9	7.7	13.0	10.0	14.8
障害のある方が活動している場所への参加	4.1	5.9	7.7	4.1	0.0	6.0	8.5	5.6	0.0	0.0	0.0	0.0
講座や研修	2.8	0.0	3.8	1.4	0.0	2.0	0.0	3.6	7.7	1.9	10.0	11.1
地域の行事	1.4	0.0	7.7	4.1	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ボランティア活動	2.4	0.0	3.8	2.7	2.1	3.0	3.4	2.1	0.0	5.6	10.0	0.0
その他	4.7	5.9	7.7	4.1	0.0	6.0	6.8	5.6	7.7	5.6	0.0	7.4
特にない	0.6	5.9	0.0	1.4	2.1	0.0	1.7	0.0	7.7	0.0	0.0	3.7
わからない	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.7	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0

(単位:%)

高齢者	★ 全障害	視覚	聴覚	肢体	内部	知的	発達	精神	高次脳	難病	未認定	その他/ わからない
有効回答数(人)	472	32	60	158	162	5	2	30	10	66	7	21
買い物	77.3	59.4	71.7	73.4	81.5	60.0	100.0	80.0	30.0	68.2	85.7	95.2
医療機関の受診	84.3	90.6	81.7	80.4	90.7	80.0	50.0	83.3	80.0	86.4	85.7	76.2
散歩	43.0	34.4	43.3	25.9	51.2	20.0	50.0	53.3	30.0	50.0	42.9	47.6
通勤・通学・通所	9.3	3.1	6.7	10.1	7.4	0.0	0.0	3.3	10.0	19.7	14.3	4.8
友人・知人に会う	23.1	12.5	16.7	17.1	25.9	20.0	50.0	33.3	10.0	16.7	57.1	42.9
その他趣味やサークル活動	20.3	18.8	16.7	14.6	23.5	0.0	0.0	23.3	0.0	16.7	28.6	38.1
スポーツ活動(観戦も含む)	9.3	6.3	6.7	8.9	10.5	0.0	0.0	10.0	0.0	6.1	14.3	19.0
音楽や絵画等の芸術活動(鑑賞も含む)	7.2	0.0	10.0	5.1	8.0	20.0	0.0	10.0	0.0	6.1	14.3	19.0
就労につながる活動	1.3	3.1	3.3	0.6	1.2	0.0	0.0	0.0	0.0	1.5	0.0	0.0
障害のある方が活動している場所への参加	1.7	0.0	1.7	3.2	1.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.8
講座や研修	4.7	3.1	1.7	3.2	6.2	0.0	0.0	3.3	0.0	3.0	28.6	9.5
地域の行事	4.2	3.1	5.0	3.2	4.9	0.0	0.0	3.3	0.0	4.5	0.0	9.5
ボランティア活動	3.8	6.3	0.0	3.8	4.9	0.0	0.0	3.3	0.0	0.0	14.3	0.0
その他	6.6	6.3	10.0	8.9	5.6	0.0	0.0	6.7	10.0	12.1	0.0	0.0
特にない	0.2	0.0	0.0	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
わからない	0.2	0.0	1.7	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0	0.0	0.0	0.0

各設問につき以下の構成とします。

・設問文とコメント ・全体グラフ ・年代別の表

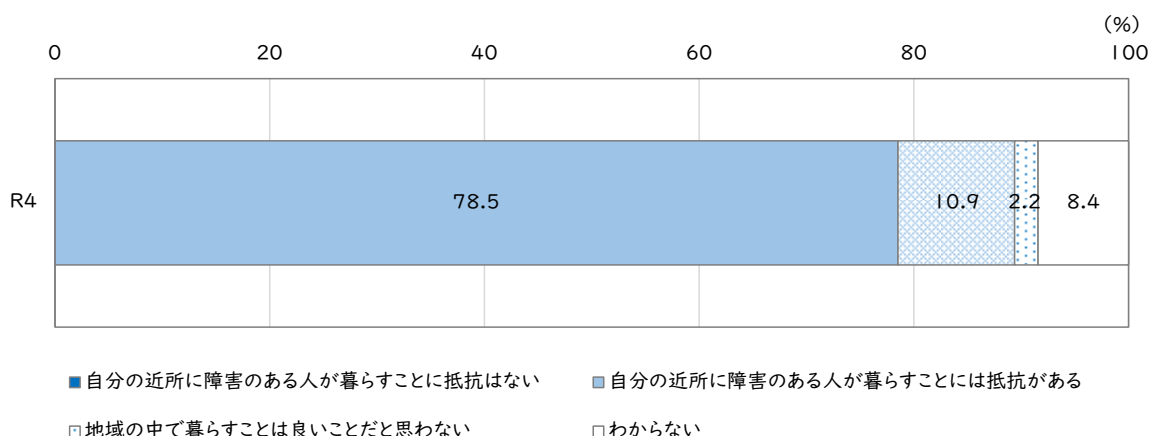
Ⅱ. 市民向けアンケート

問 15. 国は障害のある人もない人も地域の中で暮らせるように方針を打ち出しています。
あなたは障害のある人が施設ではなく、地域の中で暮らすことをどう思いますか。
(最も当てはまるものを一つ選んでください)。

全体 「地域の中で暮らすことは良いと思うし、自分の近所に障害のある人が暮らすことに抵抗はない」が8割程度で最も多くなっています。他方、「地域の中で暮らすことは良いと思うが、自分の近所に障害のある人が暮らすことには抵抗がある」が1割程度あります。

年代別 いずれの年代も、「地域の中で暮らすことは良いと思うし、自分の近所に障害のある人が暮らすことに抵抗はない」が最多で、75歳以上では9割程度を占めています。一方、29歳以下および30歳代は「地域の中で暮らすことは良いと思うが、自分の近所に障害のある人が暮らすことには抵抗がある」が2割程度で、他の年代と比べ多い傾向がみられます。

【全体】



【年代別】

(単位:%)

	全体	18~29歳	30~39歳	40~49歳	50~64歳	65~74歳	75歳以上
有効回答数(人)	368	31	45	48	93	83	68
自分の近所に障害のある人が暮らすことに抵抗はない(※1)	78.5	77.4	68.9	81.3	76.3	78.3	86.8
自分の近所に障害のある人が暮らすことには抵抗がある(※2)	10.9	19.4	20.0	10.4	10.8	10.8	1.5
地域の中で暮らすことは良いことだと思わない	2.2	-	-	2.1	2.2	2.4	4.4
わからない	8.4	3.2	11.1	6.3	10.8	8.4	7.4

(※1) 地域の中で暮らすことは良いと思うし、自分の近所に障害のある人が暮らすことに抵抗はない

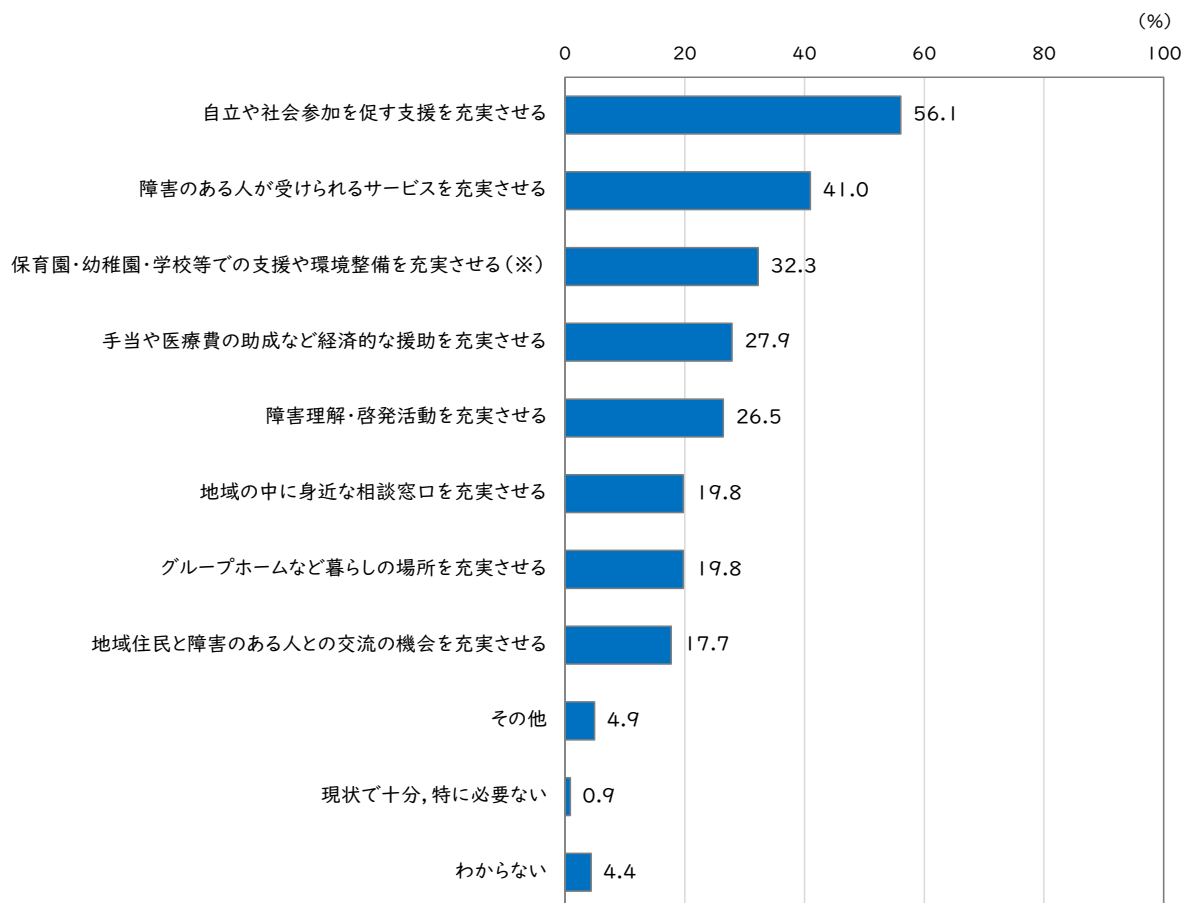
(※2) 地域の中で暮らすことは良いと思うが、自分の近所に障害のある人が暮らすことには抵抗がある

問 17. 市では国の方針を受け、障害のある人も地域で自分らしく暮らすことができる社会づくりに取り組んでいます。あなたは市が障害福祉について、今後力を入れるべきことは何だと思いますか（○は3つまで）。

全体 「自立や社会参加を促す支援を充実させる」が6割近くで最も多く、ついで「障害のある人が受けられるサービスを充実させる」が4割程度となっています。このほか、保育園・幼稚園・学校等での支援や環境整備、経済的な援助、障害理解・啓発活動の充実がそれぞれ3割程度で上位に挙げられています。

年代別 いずれの年代も「自立や社会参加を促す支援を充実させる」が最も多く、「障害のある人が受けられるサービスを充実させる」が上位となっています。また29歳以下および40歳代では障害理解・啓発活動、65～74歳では保育園・幼稚園・学校等での支援や環境整備、75歳以上では経済的な援助が他の年代と比べ多くなっています。

【全体】



(※) 保育園・幼稚園・学校等で、障害のある人が共に同じ場所で学べるよう、支援や環境整備を充実させる

【年代別】

(単位:%)

	全体	18~29歳	30~39歳	40~49歳	50~64歳	65~74歳	75歳以上
有効回答数(人)	344	28	41	45	85	80	65
自立や社会参加を促す支援を充実させる	56.1	46.4	56.1	51.1	61.2	61.3	50.8
障害のある人が受けられるサービスを充実させる	41.0	39.3	48.8	37.8	41.2	36.3	44.6
保育園・幼稚園・学校等での支援や環境整備を充実させる(※)	32.3	17.9	36.6	24.4	35.3	40.0	27.7
手当や医療費の助成など経済的な援助を充実させる	27.9	21.4	19.5	24.4	25.9	25.0	44.6
障害理解・啓発活動を充実させる	26.5	39.3	14.6	35.6	30.6	25.0	18.5
地域の中に身近な相談窓口を充実させる	19.8	21.4	19.5	22.2	17.6	18.8	21.5
グループホームなど暮らしの場を充実させる	19.8	28.6	31.7	28.9	12.9	16.3	15.4
地域住民と障害のある人との交流の機会を充実させる	17.7	10.7	9.8	26.7	15.3	18.8	21.5
その他	4.9	3.6	14.6	4.4	2.4	3.8	4.6
現状で十分、特に必要ない	0.9	-	2.4	-	-	1.3	1.5
わからない	4.4	3.6	2.4	2.2	5.9	5.0	4.6

(※) 保育園・幼稚園・学校等で、障害のある人が共に同じ場所で学べるよう、支援や環境整備を充実させる

Ⅲ. 障害福祉関係団体ヒアリング

(1) 対象団体

以下の9団体を対象に調査を実施しました。

団体名	略称	関連する障害種別
柏市視覚障害者協会	視覚	視覚障害
柏市聴覚障害者協会	柏聴協	聴覚障害
千葉県中途失聴者・難聴者協会柏地区会	中難協	聴覚障害
柏市肢体不自由児(者)を育てる会	育てる会	肢体不自由
柏市手をつなぐ育成会	育成会	知的障害
柏市自閉症協会	自閉症	発達障害
精神障害者家族会よつば会	よつば	精神障害
東葛菜の花「高次脳機能障害者と家族の会」	高次脳	高次脳機能障害
パーキンソン病友の会	友の会	難病

(2) ヒアリングの内容

以下の9つの分野に関し、現状を5段階で評価してもらい[※]、各団体が認識する課題や優先的な取組が必要な分野について意見を聴取しました。また、4つの分野(*)においては、各団体の取組を確認しました。

※ 「とてもそう思う」「ややそう思う」「どちらとも言えない」「あまりそう思わない」「全くそう思わない」の5つの尺度から選択

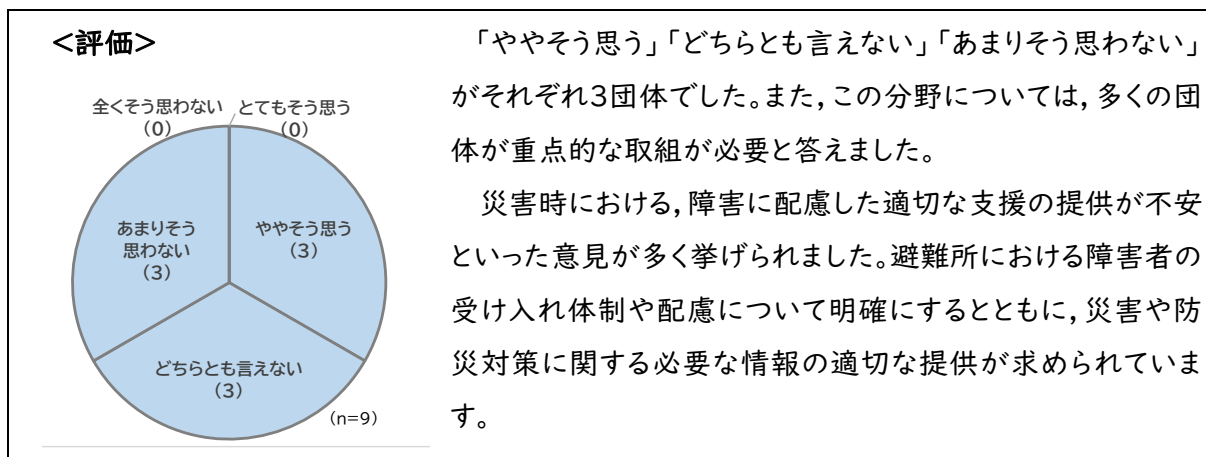
分野	評価内容	取組
情報アクセシビリティ	障害福祉に関する情報は入手しやすいか	*
障害理解・差別解消	障害理解は進んでいると思うか	*
相談体制	相談先を探しやすいと思うか	-
暮らしを支えるサービス	サービスを利用しやすいと思うか	-
健康・医療	医療を受けやすい(通院等がしやすい)と思うか	-
安全・安心な生活環境	安全・安心な生活環境の整備がなされていると思うか	*
子ども	18歳未満の子どもとその家族は適切な支援につながっていると思うか	-
就労	就労支援体制は充実していると思うか	-
社会参加・余暇活動	社会参加しやすい環境は整っていると思うか	*

(3) ヒアリングの結果

安全・安心な生活環境

1) 団体から寄せられた意見

評価内容：安全・安心な生活環境の整備がなされているかと思うか。



<障害者全般に共通する意見>

(災害)

- ・ 災害時に障害のある人が安心して避難できる場所や、災害避難所での障害のある人に対する配慮などについて明確にしてほしい。
- ・ 福祉避難所について、誰もが分かるようホームページなどで情報提供をお願いしたい。また、福祉避難所の設置においては、障害のある人の声や意見を反映することが重要。
- ・ 個別支援計画において、福祉避難所を含む避難所の受け入れ体制を明確にする必要がある。
- ・ 災害対策として、行政機関、自治会、福祉機関との連携を促進する必要がある。
- ・ 災害時に、実際に十分な対応がとれるか心配である。緊急を想定しての努力はしているが、避難所に関し不安がある。いざという時にどうすれば良いか分からない。
- ・ 災害対策に関し、障害のある人向けの情報が限られている。地域ごとの情報をもっと充実させてほしい。
- ・ 総合防災訓練において、小学校区の範囲で障害者を含めての避難訓練を実施してほしい。

(その他)

- ・ 新型コロナウイルス感染症のワクチン接種時に、一般の人と同じ会場であったが、配慮が必要である。
- ・ 道路の道幅が狭く車の往来も激しいため、歩行者の安全が十分に守られていない。
- ・ 市役所や教育福祉会館を始めとする公共施設への交通アクセスの充実が必要である。

<障害特性ごとの意見>

- 医療的ケアが必要な障害児者に対する災害時対応の強化が必要（災害時の電源や医療品の確保等）。医療的ケア児者が災害時も安全安心に避難できるための非常用電源購入費助成事業の構築を検討してほしい。（育てる会）
- 社会参加を促すには、ベンチの設置や道路の改善などハード面の整備も重要である。（友の会）
- 視覚障害者が安心して外出できるよう、エスコートゾーン（道路横断帯）や音響併設信号機の設置の充実を図ってほしい。（視覚）

2) 団体の取組

多くの団体が、災害対策に関する研修や会員への情報提供を実施しています。また、必要な支援や合理的配慮に関する要望活動にも取り組んでいます。災害に備えた活動が実施されていますが、実際の災害時において十分な対応を取ることができるか不安であるという意見が複数挙げられました。

<団体の活動例>

- 外部から講師を招いた救命講習や災害対策・防災に関する研修を実施。
（育てる会）（視覚）（自閉症）
- 新型コロナウイルス感染症の感染対策や災害対策に関する情報を提供。（育成会）（柏聴協）
- 避難指示が発令された時などに、会員の避難者を確認する仕組みを導入。（育成会）（視覚）
- 市の関係部署や自治会、福祉機関等に対し、災害時に必要な配慮等に関する情報提供や協議を実施。（中難協）（高次脳）
- 東日本大震災時に、会員の状況を確認するため、はがき送付によるアンケートを実施。（友の会）
- K-Net への登録の推進。（視覚）
- 医療的ケア児者が、災害時に安全安心に避難できるための非常用電源購入費助成事業の要望活動を実施。（育てる会）
- 合理的配慮がなされた障害者のためのワクチン接種会場の設置要請。（育成会）

<団体の活動における課題>

- 定期的に災害対応の訓練を行っているわけではないため、災害時に適切な対応がとれるか心配である。（育成会）
- 災害発生に音で気づくことができないため、状況が分かった時には手遅れとなることが想定される。また、高齢の聴覚障害者も多く、対応の検討が求められる。（中難協）
- K-Net 支援者とのマッチングが課題。また、支援を踏まえたハード面及びソフト面での当事者としての備えも重要。（視覚）

災害対策に関する障害者向けの情報が少ない。（自閉症）

IV. 委託相談支援事業所ヒアリング

(1) 対象事業所

市内を4つの地区を担当する以下の5事業所を対象に調査を実施しました。

事業所名	担当地区
社会福祉法人青葉会 地域生活相談センターシャル	北部
社会福祉法人ワナーホーム たんぽぽセンター	中央
特定非営利活動法人権利擁護あさひ	中央
社会福祉法人ぶるーむ ぶるーむの風相談室	南部
社会福祉法人桐友学園 サポートセンター沼南	東部

(2) ヒアリングの内容

以下の分野ごとに、それぞれの事業所が担当する地区における状況について意見を聴取しました。

分野	内容
包括的相談支援体制の構築	<ul style="list-style-type: none">体制づくりの中核機関として、担当する地域の包括的相談支援体制の構築の達成度※ → 達成できていること・課題・その対応策
権利擁護体制の充実	<ul style="list-style-type: none">一次相談窓口として、権利擁護体制の充実の達成度※ → 達成できていること・課題・その対応策
地域における相談支援	<ul style="list-style-type: none">地域における委託相談について、令和3年度に相談件数が多いものと相談の傾向困難事例と困難事例の中で事業所が果たした役割
地域における課題	<ul style="list-style-type: none">委託相談支援を通じて発見される課題
人材育成	<ul style="list-style-type: none">相談支援専門員の資質向上に向けた課題と対応策

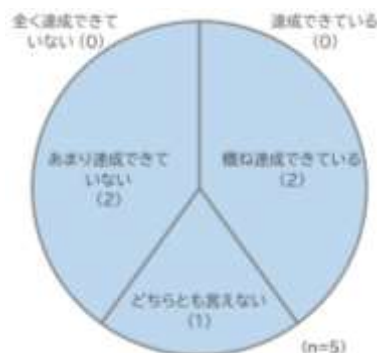
※ 「達成できている」「概ね達成できている」「どちらとも言えない」「あまり達成できていない」「全く達成できていない」の5つの尺度から選択

(3) ヒアリングの結果

包括的相談支援体制の構築

評価内容：体制づくりの中核機関として、担当する地域の包括的相談支援体制の構築

<評価>



北部地区および中央地区（あさひ）は、「概ね達成できている」、中央地区（たんぼぼ）は、「どちらとも言えない」、南部地区および東部地区は、「あまり達成できていない」との回答でした。

全体として、地域の方からの身近な相談先としての機能は果たせていると感じている事業所が多く、包括的相談支援体制という枠組みは整備されたと評価されています。一方で、関係機関間での十分な連携が図れていないことや、委託相談支援事業所としての役割が曖昧になっていることなどから、効果的な運用には至っていないとの課題が挙げられました。

<評価の内容>

（包括的相談支援体制の効果的な運用）

- 包括的相談支援の入口としての体制は整備されているが、マンパワーやコミュニケーションの充実を図り、入口だけでなく、問題解決までの手段を揃えることが必要である。
- 地域における身近な相談先として、地区割が浸透してきた印象がある一方で、中央地区では、精神障害のケースということで委託相談支援事業所に依頼が多く、担当地区外からの依頼にも応じている。地区割に沿っていないことによる業務量の増加という葛藤も抱えている。

（関係機関との連携強化）

- 個別のケースでは、他機関との連携はある程度できている。一方で、偶発的に起こるケースのみでの繋がりではなく、より深くお互いを理解するような仕組みを作る必要がある。会議のみの開催では、担当者レベルの連携には至りにくいため、避難訓練などの行事を一緒に企画して取り組むなど、一段深い、顔の見える関係づくりが非常に大事だと感じている。関係機関がお互いの顔を知らないと、包括的相談支援体制の構築は難しいと感じる。
- 南部地区では、役立つだろうテーマを考えて地区別研修を企画するが、相談支援事業所からの参加が少ないという課題を抱えている。負担にならない程度の義務付けの研修を行った方が、皆が顔を合わせる良い機会になるのではと考えている。
- 中央地区では、保健所と有効な連携が取れている。
- 北部地区では、市町村や県を超えて引っ越してくる方が多く、他の自治体からケースの内容が共有されるまでにタイムラグがあるなど、引継ぎや連携がうまくいかないケースが増えている。

(基本相談の扱い)

- 本来指定相談支援事業所で行うべき基本相談を、市から委託費を受けている委託相談支援事業所が行うべきだと理解している事業所もある。基本相談には報酬が出ないことが背景にあるため、相談員個々の自覚で変えられるものではなく、何らかの枠組みが必要だと思う。
- 基本相談と計画相談に線引きをするよりも、個々の指定相談支援事業所に合わせた対応が必要だと思う。そのためにも、日頃からお互いをよく知って、あの人ならここまでをお願いできるなどの対応ができるようにすることが必要だと思う。

(相談受付対応)

- 相談者が未だにたらい回しにされたと感じるケースがある。どこからも断られてしまうと、絶望感や怒りなどを感じ、相談の気持ちが低下してしまう。断らざるを得ない場合は、紹介先に電話をかけて、先方と繋いだことも合わせて案内するなど、つなぎ方を検討する必要がある。
- 相談者に障害があると、主訴が障害範疇ではないにも関わらず、関係機関から委託相談支援事業所に相談が来ることがある。また、初めから福祉の総合相談窓口を紹介していた方がよかった複雑なケースであっても、一次相談窓口だからという理由で、相談が来ることがある。相談者の負担を減らすためにも、最初の受付で丁寧に話を聞いて、相談先を見極める必要がある。

(関係機関間での役割分担)

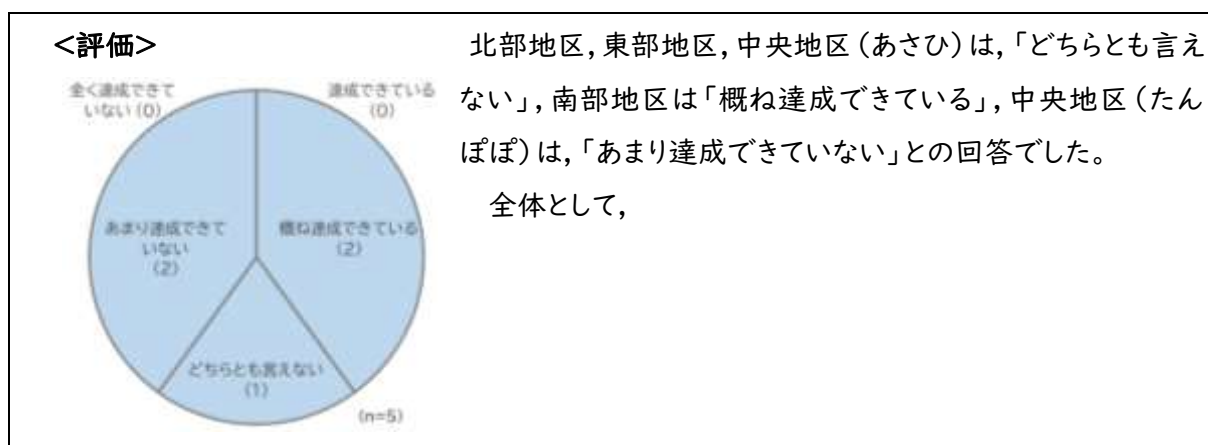
- 児童分野において、子育てに関する部分は他機関にお願いしたいが、関係機関との役割分担が進まないことに課題を抱えている。

(委託相談支援事業所の役割)

- 北部地区では、基幹相談支援センターや委託相談支援事業所として、ケース全体のコーディネートをするよりも、福祉サービスに繋いでほしいという依頼が圧倒的に多い。
- 中央地区では、どこからも断られてしまったからという理由で、計画相談の依頼件数が多く、委託相談の担当者も指定相談機能を担わないと対応しきれない状況であり、指定相談機能を分けた業務整理を行いたいと考えている。また、他市(我孫子、松戸、流山)からの依頼もあり、地域課題として考える必要がある。
- 南部地区では、委託相談支援事業所への相談のほとんどがケースワークが必要なものであり、一歩下がって全体を俯瞰して助言等を行うというよりも、前線に立ってケースマネジメントをしているのが現状である。本来の委託相談支援事業所の役割を超えていると感じている。
- 東部地区では、地域の相談支援事業所から、相談者のインテーク(初回面接)をしてほしいという依頼が多い。インテーク後の計画は立てると言われるが、人間関係の構築に直結するインテークのみを行うことは良い方法ではないと考えている。また、本来の委託相談支援事業所の役割である事業所への助言等の提供よりも、困難事例を引き継ぐことの方が多い。

権利擁護体制の充実

評価内容：一次相談窓口としての権利擁護体制の充実



<評価の内容>

(一次相談窓口としての機能)

- 後見人を利用したいという直接的な相談はないが, ケースワークを通じて後見人が必要だと判断する人に支援先を繋げることはできている。

地域における相談支援

1) 相談傾向

令和3年度に相談件数が多かった分野を13カテゴリー※の中から各事業所3つまで選択してもらいました。その結果と相談傾向のまとめは以下のとおりです。相談件数が多かったのは、「福祉サービス」、「健康・医療」、「不安解消・情緒安定」でした。

- ※ 1.福祉サービス 2.障害・病状の理解 3.健康・医療 4.不安解消・情緒安定 5.保育・教育
6.家族関係・人間関係 7.家計・経済 8.生活技術 9.就労 10.会参加・余暇活動 11.ひきこもり
12.権利擁護 13.その他

【福祉サービス】（全5事業所が選択）

- 新規の相談が多いと、相談の結果、福祉サービスにつなげるかどうかの話になるのため、必然的に福祉サービスの件数は多くなる。
- 指定相談支援事業所に断られて計画立案先を探す、もしくは直接立案してほしいという相談がある。

【健康・医療】（3事業所が選択）

- 発達障害や精神障害の方では、医療機関への繋ぎ、安定した通院・服薬を促す相談内容も多い。
-

【不安解消・情緒安定】（3事業所が選択）

- 家庭状況含めた本人、または家族の不安が強くなり、話を聞いてほしいと電話や面談の希望がある。内容も複雑化している。
- 同居家族との関係に対する悩みや将来の不安が多く挙がっている。

また、相談件数としては多くはないものの、丁寧な相談が求められるケースとして、「家族関係・人間関係」、「保育・教育」、「生活技術」などが挙げられていました。その他、地域的な特徴として、南部地区は、8050問題による「ひきこもり」の相談が非常に多いという傾向がありました。

2) 困難事例の傾向と困難事例に対応する上での事業所の役割

委託相談支援における困難事例の傾向と、事例に対応する中で、委託相談支援事業所が果たした役割や地域から求められている役割について伺いました。

（困難事例の傾向）

- 世帯全体に支援が必要なケース。医療、介護、子育て、経済面など相談内容が多岐にわたり、障害福祉だけでは解決が困難である。
- 医療トラブル、反社会的問題行動、ひきこもりの複合的課題をもった方のケース。
-

（困難事例に対応する上での事業所の役割）

- 地域の相談支援事業所（特に一人運営の事業所）のサポートや相談役。

地域における課題

1) 情報アクセシビリティ

- 支援が必要な状況の人は、自分から情報にアクセスできないという現状がある。自ら発信できない人の課題を把握できるような仕組みを検討する必要がある。
- 失業手当等の申請に関して、軽度の知的障害の方では、理解が難しいという課題がある。

2) 福祉サービス

3) 健康・医療

4) こども

5) 就労・社会参加

6) その他

人材育成

(委託相談支援事業所の役割)

- 委託相談支援事業所が中心になって、地域の相談支援事業所へ助言等を行っていくことが望ましいと思うが、現在のマンパワーでは担えていないという現状がある。
-

(基幹相談支援センターの役割)

-
-